

⑪ 掛け軸ふりけん

【持ち方】 掛け軸の持ち方

ただし指は湾曲させてはならない。けんは必ず人差し指に掛けること。
指で皿胴をにぎったり押さえたりはさんだりして固定しないこと。(下記説明、写真例参照のこと)

【技の動作】

一方の手で掛け軸の持ち方(指は湾曲させない)でけんを持ち、他方の手でつり下げた玉を持って手前に引き寄せ構える。玉を放して玉を前に振り出し、けんを手前に動かして玉を引き空中で玉を手前に1回転させ、掛け軸の持ち方(指は湾曲させない)を維持したまま玉の穴にけん先を入れる。

【注意事項】

- ・玉の穴にけん先が完全に入ること。
- ・手で玉を持って体を一旦静止させて構えている場合、玉を振り出すために、膝を曲げ伸ばす動きや、体でリズムをとるなどの予備動作を行った時点で技が開始されたと見なす。
- ・手で玉を押さえずに一旦体を静止させて構えている場合、玉を前後に振るなどの予備動作を始めた時点で技が開始されたと見なす。
- ・技を開始した後に、再び手で玉を押さえるなど、あきらかに技の一連の流れを止める動作を行った場合は、動作を中断しやり直したと見なす。
- ・技の開始から主審の「成功」の合図(発声、挙手)まで、けんが手から離れないこと(けんが手から浮かないこと)。
- ・技の開始から主審の「成功」の合図(発声、挙手)まで、けんを持つ手の親指が玉や皿胴に触れないこと。
- ・けんを持つ手の指が不自然に湾曲するなど、皿胴をにぎったりはさんだりしてけんを固定したと見なされる場合は失敗とする。

※「掛け軸の持ち方」

- ・親指を除く4指を合わせ(必ずしも4指を密着させる必要はない。また、合わせた4指を湾曲しても良い)、けん先を上にしてけんを手の甲側にし、大皿皿胴下を人差し指の親指側の側面に掛ける。(「掛け軸ふりけん」においては4指を湾曲させないこと)
- ・けんを掛ける位置は、人差し指の先端から親指の付け根の間であればどの位置でもよい。ただし、親指は皿胴に触れてはならない。

● 掛け軸ふりけんを行う際の持ち方「例」
「可とする持ち方」



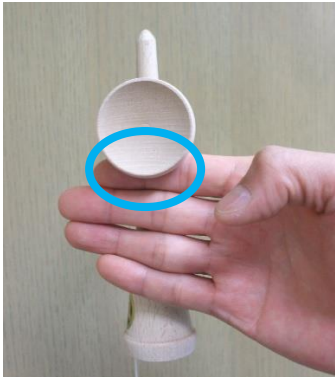
4指は湾曲させない



自然な軽微な湾曲は可



4指密着の必要はない



指先に掛けている場合



指の根本に掛けている場合

「不可とする持ち方」



人差し指でにぎっている



親指で押さえている



人差し指と中指ではさんでいる



(けんは指に掛かっているだけだが)
指が湾曲している
→ 4指は湾曲させないで下さい。

●その他

※指にけんが「掛かっている」状態（にぎっていない、押さえていない、はさんでいない、すなわち固定していない、ホールドされていない状態）なので、玉の穴にけん先を入れそこねた場合、落下する玉に引っ張られてけんが手から落ちる可能性が高いです。

※ワンポイントアドバイス

「掛け軸ふりけん」を行う際は皿胴や玉に親指が触れやすいので、親指を手の平側に折っておく（手の平と親指をくっつけてしまう）と無難です。



※事故の後遺症等で、心ならずも指が湾曲してしまう場合は、受付時に申し出て下さい。